

2024 年度 武田中学校高等学校 インターアクト部活動報告



2024年度 武田中学校高等学校 インターアクトクラブ活動報告

当クラブは月、水、金曜日を全体活動日とし火、木曜日は自主活動日としております。本稿では紙面の都合で通常の活動は割愛させていただきます。

<6 月>

ガザ地区出身の仲間とのオンライン交流会

2024年6月14日(金)定期的に交流を持っているガザ地区出身の仲間とのオンライン交流会を実施しました。今回は直前の呼びかけにも関わらず、広島県から如水館高校と英数学館高校が、山口県から誠英高校とザビエル高校のインターアクト部のみなさんも参加してくれて、いつも以上に盛り上がることができました。

前半はLamaさんとJenanさんとSuzan先生がアラブ料理について教えてくれました。「Falafel」「Mosakhan」「Maglobe」「Manakeesh」「Mujadara」「Molokhya」という料理を紹介してくれました。多くの料理にオリーブオイル、玉ねぎ、鶏肉が使われており、材料自体は日本でも準備できそうなものが多かったので、近々インターアクトでアラブ料理の調理実習をしてみたいと思います。『Sharing=みんなで分け合うこと』についても教えていただき、「Sharing makes enjoying」という考え方が印象的でした。また美味しい料理を作るためのアドバイスとして「一番大切なスパイス、材料はwith LOVE」という言葉ももらいました。他校生徒さんからもアラブ料理について積極的に質問がなされて、多くの学びが得られ、有意義な時間を持つことができました。

後半は武田の生徒が日本の高校生が普段食べているお菓子について説明しました。



<7 月>

江田島でシーカヤックに挑戦！

7月25日(木) インターアクト部の生徒とオーストラリアからの野球留学生セバスチャン君が、江田島カヌークラブでシーカヤック体験を行いました。元武田教員である木村直樹 先生が、初心者のインターアクト部員にカヤックを優しく教えてくださいました。一人乗りのカヤックは、風の抵抗や波の動きを考えながら自分でバランスを取らなければならず、最初は難しかったようです。しかし、木村先生と他のカヌークラブのメンバーの温かい指導のおかげで、生徒誰一人もギブアップせずに、最後まで2.5キロコースをクリアできました！さらに、8人同時に乗れる「メガサップポート」に皆で乗りましたが、お互いにバランスを取りながら挑戦する中で、コミュニケーションの大切さを実感できました。

美しい瀬戸内海の自然のなかで、楽しみながら、素晴らしい経験をすることができました。またぜひ江田島カヌークラブに行きたいと思います！



<9月>

文化祭

文化祭では当インターアクト部が積極的に交流を行ってきたインドネシアの伝統料理である「サテ」と中国の焼き鳥「シャオカオ」の販売に挑戦しました。サテは鶏肉にインドネシア独自のソースを絡めて味付けをした焼き鳥です。インドネシアの方にソースの作り方を教わり、インドネシアの調味料をインターネットで購入して、本格的な味に挑戦しました。「シャオカオ」も中国直輸入のスペシャル調味料で味付けしました。



<10月>

パレスチナ支援フリーマーケット

2024年10月13日(日) 基町ショッピングセンターで開催された「パレスチナ支援フリーマーケット」に参加させていただき、ガザの子ども達が描いた平和の絵を展示・解説し、来場者の方々にピースメッセージを届けました。今回のイベントは広島県内でパレスチナの平和のために活動している団体が集まり、パレスチナ支援の寄付を集めたり、パレスチナの状況を広く知ってもらったりすることが目的です。生徒たちは学校外で平和を願って日々活動されている人々の話を聞かせていただき学びの機会となりました。



香山ラベンダーの丘花いっぱいマルシェに出展

世羅高原町の香山ラベンダーの丘にて開催された花いっぱいマルシェに参加させていただき、ガザ地区の子どもたちが「平和、広島、ガザ」をテーマに描いた絵画“Peace Arts”を展示し、その一つ一つに込められたメッセージを来場者にお話しさせていただき、GAZAの現状や平和について考えてもらいました。当日はハンドメイドの小物のお店やこだわりコーヒーのお店などたくさんのお店が出店され、我々の活動を目的にきたわけではないお客さんもたくさん足を止めてくださり、生徒たちの話に耳を傾けてくださいました。ガザ地区出身の仲間の教育をサポートするための募金活動に対しても、活動の趣旨にご賛同いただきたくさんの方に募金していただきました。



<11 月>

韓国・中東・日本の多国間セッション

2024年11月15日(金)武田中学校高等学校を訪問中の韓国の高校生2名がインターアクト部に来てくれました。この日は定期的に交流を行っているパレスチナ ガザ地区出身の生徒3名と彼らの先生とのセッションの日だったので、多国間のセッションになりました。Susan先生とFadiとJenanはヨルダンで、Lamaはリビアで避難生活を送っていることから、日本、ヨルダン、リビアをオンラインで繋ぎました。韓国の生徒にとっては予期せぬ活動でしたが、非常に盛り上がりました。

まずは日本と韓国の違いに関するクイズにガザの4人に答えてもらいました。サッカーの韓国代表と日本代表の違い、日本の木製の箸と韓国の金属製の箸の違い、J-PopとK-Popの違いなどです。また韓国チームからガザチームへの質問、ガザチームから韓国チームへの質問も積極的に行われ、お互いに学びの多い機会になりました。



続いて、韓国の2人と一緒に日本の伝統的な遊びに挑戦しました。1つ目は「はないちもんめ」です。最初は英語でやりましたが、賢い韓国の2人はすぐに日本語でできるようになりました。2つ目は「昼・夜・電信柱」ゲームです。ルールは割愛しますが、非常に盛り上がりしました。

最後は、我々インターアクト部の主要活動の一つである平和貢献活動について紹介しました。これまでにガザ地区と協働してきた活動を説明し、ガザの子ども達が描いたピースアートについて説明しました。韓国の2人は真剣に耳を傾けてくれ、色々な思いを聞かせてくれました。実は1人は韓国でも平和や人権に関する活動を行っていることが分かり、これからも一緒に活動していこうという話になりました。



国際フェスタ2024に出展

2024年11月24日(日)広島国際会議場で開催された国際フェスタ2024に出展させていただき、ピースメッセージを届けました。これまでに様々な場所で行ってきた、ガザの子ども達が描いたピースメッセージを披露し、ガザの現状や絵に込められた思いを来場者に聞いていただきました。

前日に中国新聞に当クラブの活動紹介記事を掲載していただいたこともあり、新聞を読んで見にきました、という方もたくさんおられました。



<12月>

ポーランドの高校とクリスマスイベント

2024年12月6日(金) この時期の恒例行事となったポーランドの高校とのクリスマスイベントを今年も行うことができました。まずはポーランド側が、Christmas pageant(キリストの降誕劇)を披露してくれ、劇中に歌ったポーランド語の歌を教えてもらい、一緒に歌いました。更に武田側は日本の文化紹介の一つとして「忍者の武器」を紹介しました。Souther先生が持ってきてくれた「手裏剣」「日本刀(模造刀)」そして「ヌンチャク」を披露しました。ヌンチャクさばきが上手く、「日本では武器の使い方の授業があるの？」という質問があがりました。



続いてポーランド側がクリスマスのシーズンに良く食べられる「アップルパンケーキ」の紹介を画面の向こう側で調理しながら教えてくれました。料理しながら「普段はどんな物を食べるの?」「朝ごはんは何を食べるの?」など、食文化についての話題で盛り上がりしました。



最後はポーランドの伝統的な占いを体験しました。この占いはカギの穴の上からロウソクをたらし、それを水の上に垂らして、冷えて固まったロウの形を見て、将来を予想するというものです。ポーランド、武田が交互に行い、浮かび上がってきたロウを見せ合って何の形に見えるかをお互いでイメージしました。ハート、ブリッジ、ヤモリ、カエル等、様々な物が浮かび上がり、大変盛り上がりしました。



<1 月>

International MOCHITSUKI(国際餅つき)イベントの開催

2025年1月4日(土) 恒例行事である「International MOCHITSUKI (国際餅つき)」イベントを開催しました。今回は、アフガニスタン、エジプト、アメリカ、中国、ウクライナ出身のゲストをお迎えし、みんなで餅つきを楽しみました。つきたてのお餅をいただき、賑やかなひとときを過ごしました。

餅つきの先生としては、Souther先生の義理のお母さんである川北千恵美先生が早朝からサポートしてくださいました。小さなお子さんたちも大人用の杵を使い、全身を使って餅をつく姿がとても可愛らしかったです。また、Souther先生の弟でアメリカで警察官をしているSamさんも参加してくれ、最強コンビの力強さで杵が割れてしまう場面もありました。



韓国のインターアクト生徒をホスト

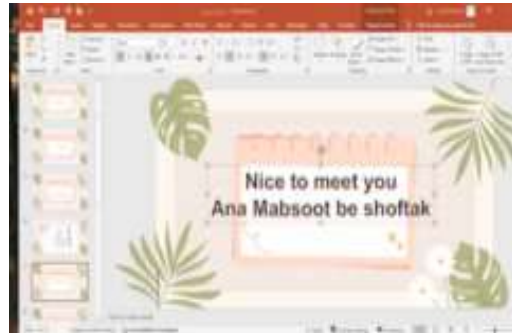
2025年1月18日,19日の2日間、韓国のインターアクト部に所属する高校生たちが来日し、広島県内のインターアクト部の高校生宅にホームステイしました。県内のインターアクト部各校から1~2名がホストファミリーとして受け入れを行いました。2日間という短い期間でしたが有意義な国際交流の時間になりました。



パレスチナ ガザ地区出身の先生によるアラビア語レッスン

2025年1月24日（金）、2019年にガザの子どもたちに「平和」をテーマに絵を描いてもらったアートコンテストの際、現地でプログラムをオーガナイズしてくださったIsra・El・Hoby先生と久しぶりにオンラインで再会し、アラビア語を教えていただきました。

イスラ先生はガザ地区のラファ出身で、現在は北アフリカのチュニジアで難民生活を送られています。私たちの「アラビア語を教えていただけませんか？」というお願いに対し、「ぜひともやらせてください！」と快諾してくださり、その溢れる情熱が画面越しに伝わってきました。



<2月>

レバノンの学生と平和研修

Oleander Initiative（オリアンダー・イニシアティブ）は、世界中で平和構築に携わる人材を広島に招き、ヒロシマの教訓を彼らのコミュニティで影響力のある平和活動に変えることを目的としています。

昔からかわりのあるOleander Initiativeからお誘いいただき、中東レバノンから7人の学生と1人の先生が広島を訪れ、様々な研修プログラムを受ける中で、一緒に平和について語り合う機会を与えていただきました。

インターアクト部の教員は、2016年のオリンダー・イニシアティブに参加した経験があり、その際、中東の先生方が各国から来日しました。実はその中に、今回引率を担当した先生がいらっしゃったことが分かり、再会の機会となりました。

今回は女学院高校と安芸南高校の生徒たちも参加しました。最初に平和公園を2グループに分かれて見学し、女学院高校の生徒が各記念碑の説明を行いました。レバノンの学生たちは熱心に質問をし、理解を深めていました。



第8回異文化理解理解フォーラム開催

2025年2月22日、広島市中区の広島国際センターにて、第8回異文化理解フォーラム“Let's Talk About Gaza”を開催しました。本フォーラムには、誠英高校（山口県）、英数学館中学校、修道高校、広島大学附属高校、庄原格致高校、広島修道大学ひろしま協創高校、AICJ高校から、平和貢献や国際問題に関心の高い高校生が県内外から集まりました。

今回のフォーラムでは、広島市立大学国際学部の田浪亜央江准教授（長年にわたりパレスチナ問題に関わる研究をされている）と、シカゴ出身で現在広島市立大学にて「芸術と平和」を研究しながら、ガザに対する弾圧や戦争への抗議活動を行っているレベッカ・ゴールドシュミット先生をゲストスピーカーとしてお招きし、ご講演をいただきました。



<3月>

広島文化学園大学「はなまるキッズ」参加

広島文化学園大学 人間健康学部 スポーツ健康福祉学科教授の加地信幸先生が代表を務められる、重い障がいのある障がい児者を対象とした”アダプテッド・スポーツ”を支援するボランティア活動の「はなまるキッズ」に参加させていただきました。

最初に、特別支援学校の先生方や看護師、保育士の先生方とチームを組み、支援する人々の障がいの種類や特性について学びました。そして、実際の支援方法について教えていただきました。トランポリン、ローラーボード、ハンモック、風船バレーなど、異なる刺激を感じることができる種目をローテーションで行いました。自分の意思で体を自由に動かすことが難しい人々が、これらの活動を通して嬉しそうな表情を見せてくれた瞬間は、私たちにとっても大変嬉しいものでした。



＜4 月＞

ランドセルプロジェクトの実施

このプロジェクトは、武田中学校高等学校の生徒が6年間使用したランドセルをご寄付いただき、部員たちが丁寧に磨いて再生し、今春、小学生になる外国籍の子どもたちにそのランドセルを贈るというものです。

年明けから、学校全体に呼びかけた結果、50個以上ものランドセルをご寄付いただきました。多くのご家庭のご協力をいただき、武田の保護者の皆様の温かいご支援に心から感謝しています。

今回は日頃から協働しているインドネシアコミュニティの子どもたちにランドセルを贈呈しました。毎年、子どもたちやそのご家族が嬉しそうな笑顔を見せてくれることが、私たちにとっても大きな喜びとなっています。

この取り組みは、長年続けてきましたが、以前にランドセルを贈った子どもが帰国後、母国でそのランドセルを引き続き使用しているという話を聞き、Made in Japanの優れた品質に驚き、誇りを感じている次第です。

武田中高生たちが使ったランドセルが、次世代の子どもたちの教育を支えていることを思うと、この活動はまさに草の根の国際協力であり、SDGsの理念にも通じるものだと実感しています。



ガザ地区出身学生とのオンライン交流

2025年4月25日(金)

今回のオンライン交流ではポーランドの学校、英数学館高校、如水館高校、そして山口県の誠英高校も参加してくれました。前半では、3人のガザの若者たちが簡単なアラビア語を教えてくださいました。

「私は〇〇です」「お名前は?」「こんにちは」など、日常で使える基本的な表現を、ネイティブの発音に続いて何度も練習し、楽しく言葉を学びました。

続いて、国連が定義する30の基本的人権に基づきながら、アラビア語の表現とともにガザ地区における人権の現状について話してくれました。

この交流を通して、私たちは言葉だけでなく、その背後にある切実な現実にも触れることができました。＜5



<5月>

ガザ地区出身の仲間のための募金活動

私たちは定期的に交流しているJenan, Lama, Fadiのガザ出身3人の教育支援を目的としたクラウドファンディングサイトを立ち上げました。その一環として、校内においても募金活動を実施しましたところ、多くの生徒・教職員からご賛同をいただき、予想を上回るご寄付をいただくことができました。武田のみんなの温かさを感じました。また募金への感謝の気持ちとして、インターアクト部員がデザイン・制作したオリジナル缶バッジをリターンとしてお渡ししました。



第48回インターアクト指導者研修会への参加

2025年5月31日(土)に広島国際会議場および平和公園で行われたインターアクト指導者研修会に参加しました。今回のテーマは被爆80年にあたり、戦争の悲惨さと平和の尊さを学ぶことでした。前半は広島県で平和教育を推進するNGOのPeace Cultural Villageの指導の下、グループに分かれて平和公園内のピースツアーが行われました。これまで何度も訪れている平和公園ですが、新しく学ぶことが多く、次回海外からのゲストを案内する際はしっかり伝えたいと思いました。後半ではグループ毎に平和に関する知識を深めたり、平和に関するディスカッションを行いました。他校の生徒さんと意見交換でき、有意義な時間をもつことができました。



<6月>

ガザ地区出身の仲間のための街頭募金@西条駅

2025年6月6日(金) 現在実施中のクラウドファンディングを地域の方々に広めることを目指して、夕方西条駅で街頭募金を行いました。当日はお忙しい中、提唱クラブである東広島21ロータリークラブのロータリアンの皆さまをご参加くださいました。2時間で35000円を超える支援金を集めることができました。今後も引き続き、目標達成に向けて活動していきます。



東広島21ロータリークラブ例会で24年度の活動報告

2025年6月10日(火)伯和ホテルにおいて、提唱クラブである東広島21ロータリークラブの例会にお招きいただき、2024年度の活動報告をさせていただきました。東広島の経済界を引っ張っておられるロータリアンの前でのプレゼンテーションは緊張しましたが、皆さんが真剣に耳を傾けてくださったおかげで、しっかりと発表することができました。また先週の西条駅における街頭募金に続き、現在実施中のクラウドファンディングに多くの支援金をご寄付いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。来年の例会でも素晴らしい活動報告ができるように1年間頑張っていきたいと思います。

